

日時：令和7年5月15日（木）午後1時30分～

場所：結とびあ302号室

1 開会

2 委員長あいさつ

3 委員紹介

4 議事

(1) 令和6年度事業の実績及び成果指標の達成状況

事務局：資料に基づき説明

アドバイザー：観光入込客数について、思ったよりは新幹線効果が見受けられなかったと思う。猛暑や紅葉の遅れなどの季節的な要因というお話もあったが、受け入れ体制の影響など、市として他に考えられる要因はあるか。

インバウンドのデータを取り始めたのは良いと思う。今後、来訪の目的や宿泊地などのデータを取る予定はあるか。

事務局：受け入れ体制を詳しくは分析できていないが、事業者に聞いた肌感覚でいうと、まちなかの入込は増えたと聞く。昨日、麺類組合の総会にも参加して話を聞いたが、冠山峠開通の影響も大きく、池田から大野に流れてきているとのこと。猛暑日が例年よりかなり多く、その影響が大きかったと思う。

インバウンドのデータについては、追加で取る予定はないが、今年度にインバウンドの戦略を作るので、そこで検討していきたい。

アドバイザー：新幹線からの二次交通の評価も気になる。マイカーやレンタカーなら、すぐ大野に行けるが、外の人にはそういった認識がないと思う。交通アクセスのPRは重要。

旅の大きな目的は食なので、食のPRはやり続けていかないといけない。外国人にも食の情報をどう届けて、どうやって知っているかを分析していかないといけないと思う。

委員：新幹線効果や観光面での影響について県全体の評価はどうか。

委員：開業から1年経過し、県全体の入込は増えているが、開業効果の濃淡がでている。二次交通のアクセスが良いところは影響が大きいですが、悪いところは少ない。福井駅周辺では、ホテルが取れずに客があふれている。県としては、いかに県内全体に効果を行き届かせるかが課題。

新幹線だけでなく、車のアクセスもあるので、中部縦貫は、東海との新しい流れができる重要な道。3年延びたが、助走期間としていい準備ができたなら。

県内のGWの入込は、主要10か所のうち8か所は昨年度を上回った。実数でいうと約95%。県外県内比率では、県外が5%増加。首都圏・甲信エリアは昨年並みだが、関西は昨年より延びており、万博の影響か。

F T A S と別の観光連盟のアンケート結果で、満足度・推奨度について、昨年上がったが、今年はさらに上がっている。県全体で開業を機に、おもてなし向上の努力・準備をしてきた効果が出てきていると感じている。

委員：大野市独自で見るとどうか。

委員：国道158号の通行止めは非常に痛い。7月の終わりには仮設道路ができると聞いているが大きいバスが通れるのか。夏休みの計画はずいぶん前から決めている。7月頃には開通するかもしれないという状況ではつらい。今年の5～7月がどうなるか非常に心配。北陸の方から大野に来てくれたため、GWは賑わっていたが心配である。

インバウンドは一番伸びしろがあると思う。延べ宿泊者数は608人とのことだが、実人数は何人か気になる。

外国人が来たときに対応できる準備ができているか疑問。キャンペーンやアンケートなどで、来た方の感想も聞いてほしいと思う。

委員：観光以外で何かあるか。

委員：ビジコンで事業化に向けて進んでいる事業者はあるか。

事務局：サーモンのプランについては、大野市に会社を登記され、今年度は、サーモンの商品開発を行うと聞いている。

委員：我々もフォローするのでお声がけいただければ。

観光について、勝山の太夫が国内もインバウンドも含めすごく注目を浴びている。開業効果が広がっていて、GWもかなり車が停まっていた。二次交通が良くないということの裏返しでもあるが、勝山駅から太夫まで歩いて行く人も見られた。駅からの発信を戦略的にしていけると良いと感じた。

アドバイザー：昨年10月の報道で、外国人旅行客の都道府県別増加率は、福井県が一番で、県内では勝山が一番だった。その効果を太夫市では、まだ取り込めていないのかなと感じた。

(2) 令和7年度事業について

事務局：資料に基づき説明

委員：市内には蔵元が3つ、ワイナリーもある。県でも蔵元を観光に取り入れる事業を行うと見た。太夫市でそのような計画はあるか。各自でやるのならそれに対する支援はあるか。観光に対するソフト事業をやるのはわかるが、観光インフラにある程度お金をかけて整備しないと観光地にならないと思う。太夫の観光地はどこが売りだと思っているのか。

事務局：酒蔵のラベル集めなど、色々取り組んでおり、日本酒は観光客を呼ぶ素材として強いと思うので、PRや展開は考えていきたい。

太夫の観光地としては、越前太夫城、星空、九頭竜の恐竜化石、道の駅荒島の郷の4つを磨き上げブランド化してきた。今後はそこをいかに周遊させるか。

委員：データを見ると高齢の観光客も多い。太夫の整備などが必要ではないか。登る手段を考えていただけたらと思う。

委員：ワンハンドグルメについて、結楽座に看板を設置してもらって感謝している。

お店がバラバラにあるため、何店舗かのものが買える拠点があると、観光客にとってはいいのではないか。

事務局：お店を回って、道中を楽しんでほしいという目的でもあるので、観光客の方には周遊してほしい。

一方で、お客さん目線かというと一か所に集約されているといいとも思う。結楽座や道の駅では可能ではないかと考えるが、まずは回ってほしい。

委員：インバウンドが増えているという話があるが、市内の宿泊事業者に聞くと、あまり増えていないと聞く。荒島旅舎やナマケモノはインバウンドが多い。旅館では、重いスーツケースを畳の部屋に持ち込む問題があり、畳やマットレスの交換が必要。そういったものに対する支援があるとありがたい。

市内のお酒が美味しいので、まちなかで試飲できる場所があるといい。

事務局：荒島旅舎とナマケモノにインバウンドが多い一番の理由は、サイトへの登録が大きい。登録の管理は大変みたいなので、複数登録するのではなく、まずは国内外の人が使うサイトを一つに絞って使っていると聞く。

大野に住まない人が市内で民泊をする動きも出てきた。オンラインで鍵の管理等をしている。

民宿のリニューアルについては、県も増やそうとしており、補助率2/3で、最大1,000万円の補助もある。

委員：地域金融機関としては、創業支援や販路拡大に力を入れていきたいと思っているので、ビジコンについては、積極的に取引先に紹介していく。まちづくりとかをやっている学校や学部にも配ってもいいのではないかな。

令和6年度事業の説明で、FTASのネガティブコメントを見ると、閑散としている、お店が少ないの2点だと思う。土日だけでもキッチンカーを呼ぶ。出店への補助なんかもあるといい。

委員：ビジコンは、大学以外でもPR先を検討できれば。

国道158号の通行止めについて、事業者にはアヒアヒした。商店街区域の方からは、まちなかに人が歩いていない、売上に若干影響があると聞く。また、勝山の太夫などからのお客さんが夕方に集中し、対応できないと聞く。近隣との連携も進めていただけるとありがたい。

委員：ブランド活用事業補助の廃止について、民間がやろうとした時にどこかで救い上げる制度は残してほしいと前回の会議でも言った。今年度の事業を見たときに、それがどこにも見当たらない。イベントは残念ながら、当然儲からないが、外から大野市に来てもらうためのフックになると思う。市民が自発的にやりたいという動きがあったときにそこをサポートする補助金がないのが現状。100年に一度のチャンス到来、キャッシュポイントを増やそうと書いてあるが全て民間依存なのかと思ってしまう。

ワンハンドグルメもそうだが、いろんなことも含めて、観光の部分については、私たちはどこを向いて仕事をしているのだろう。回ってほしい、自分のお店に来てくれればいい。でもお客さんは、1か所に集まってるほうがいい。あくまでもお客さんの利便性やニーズにいかにか大野市が近づけるかということがとても大切になってくる。

せっかくお客さんが増えてきて、いろんなことをやりたい・やろうとする人たちが出てきたときにそこを救い上げる、そういうことが地域力ではないかと思う。

その中で一つキーになるのは、ふるさと納税。大野は来るにはハードルが高いけど、食べ物美味しいイメージがあって、その部分が一つの切り口になるような気がしている。そのために農林楽舎が動いているんだろうと思っている。

事務局：今年度事業に、ブランド活用事業補助に代わる事業は無い。市として考えていきたいと思う。

委員：何か補助金がないかという事業者が来た時に、制度として無いという答え方ではなく、それも引き受けられるようなフレキシブルな対応、支援がこれから必要になるのではないかと考えている。

委員：ふるさと納税について、他の県では、米の受注が多く、お断りしていると聞くが大野はどうか。

事務局：令和7年度産のお米を先行予約をする形で受付をしている。事業者によっては、売り切れで受付を止めている事業者もいる。4月の昨年度比で400%増でほとんどがお米。農業林業振興課と協同して、米農家でふるさと納税返礼品に登録してもらえる業者を増やしていきたいと思う。

委員：お米プラス農産物などの付加価値をつけて売るといったことも考えてはどうか。

事務局：返礼品の組み合わせなどのバリエーションも増やしていきたいと思う。

委員：課題を解決するにあたって、どのように進めていくといいかを、今後は事務方として職員、民間の方の意見を伺いながら、良い方向に進めていきたいと思っている。今日いただいた意見を自分なりに分析して、人口減少の中で進めていくことが必要なものと考えていきたい。人口減少の中で、財政的に言えば、市税は伸びていない状況。そういった中で、どのように工夫して国や県からお金をもらって、事業者のために使っていくかを考えていきたい。

5 その他

(1) 国道158号の斜面崩壊（通行止め）に係る対応状況

事務局：資料に基づき説明

委員：道の駅九頭竜の状況は、4月は昨年度比70%減。市のメディア広告のおかげで2割程度回復したと思っている。GWだと5割程度ぐらいまで回復している。ただ、それ以降の平日は減っている。見たから来たよというお客さんもいるので、広告の対策などはありがたい。

短期の資金の貸出しについて、短期でいいのかどうか。せめて3年、5年の中長期が必要ではと感じる。

来年度の冬のバスの誘客で名古屋に営業したが、もう怖くて行けないというバス会社が結構いる。開通しても仮設道路ではバスが通れないのではないかなど、ネガティブなイメージが広がっている気がする。そこを回復させるためにも国道158号を通ってくるツアー造成に対する補助などがあるとありがたい。

委員：誘客だけでなく、大野から白鳥や郡上への物流について、大野の醤油や日本酒が岐阜に配送されている。行けないことはないが、米原周りになることでコストもかなりかかるので、地場の生産者向けの支援も考えていただきたい。

(2) 越前おおの産業ブランド力向上戦略について

事務局：戦略の期間は、令和8年度まで。今年度から次期に向けた調査や検討準備を向上会議で進めていく。そのため、今年度は計4回、向上会議を開催。ご協力をお願いします。

(全体を通して)

委員：勝山の太夫の話に追加で、太夫の前で待っているインバウンドの方に声をかけて話を聞いた。金沢から来て、次は大阪に行くとのことだった。福井県は太夫だけ見に来たとのこと。インバウンドになると、移動はあまり苦にならず、より目的地志向。そういう意味では、目的地になるという視点が非常に大事。ただ、そればかりを追い求めてはダメで、恐竜博物館に来ている人を取り込む視点の2つの視点が必要。混同せずに、この施策はどちら向けの施策なのかを分けてやっていかないとどっちつかずになる。

大野の目的地化でいくと、星空を一つの目的として売っていこうということで、向上会議から生まれた逸品創出事業は、なるべく高付加価値な商品・サービスを作って高く買ってもらおうという事業だが、昨年度の事業でできたものは星空関連の菓子商品があり、今後荒島の郷でも星の商品コーナーを作って売っていきたい。

委員：国道158号の対策で、県も施策を考えており、6月補正を待たずに、プロモーションを行っていく。

戦略のKPIの宿泊者数の目標15万人は非常に高い目標値。市内の宿泊施設の客室数×理想とする稼働率で適切な目標値なのかかわかりかねるが、考え方として、観光消費額を追いかけるのも一つだと思う。リピーターを増やし、消費単価を上げていくのも大事だと思う。

FTASとは別のアンケートで、高齢のお客さんがJRで大野市に来て、駅で迷っていたら観光ボランティアの人が声をかけてくれて、案内までしてもらえて、とても感激したとコメントがあった。プロモーションも大事だが、お客さんの満足度を上げていくという観点から、受入体制や環境整備も改めて重要だと感じた。

アドバイザー：ここ2、3年大野市に関わって、選択と集中で取り組んで、いろんな素材が磨かれて、準備は整ってきたと思う。もう一步踏み込んで持続的に発展していくためには、もう一段選択と集中を繰り返す。例えば、観光誘客において、FTASの分析で出ている50代、60代を今後も狙うのか、それとも、まだ足りない30代、40代の方を勝山から取り込むのか、それも選択と集中。

昨年調査で見えているのが、旅行される方は事前にデジタルなツールを使って調べてきている方が8割。そうなった場合、50代、60代の方にも情報発信がちゃんとできているか。当然若い方の中でもSNSの活用率が高いことは見えていて、SNSを通じて情報がちゃんと届けられているのかを確認した時に、何が足りなくて、どこを伸ばすべきか今一度分析して、そこから選択と集中をしていく分岐点に来ている気がした。

委員：福井県は製造業と建設業の二つの産業が占めていたが、新幹線が来ることによって、観光も含めたサービス業に力を入れていく時代に来たと思っている。

昔から、三つのCをよく使う。チェンジして自分を変えて、チャレンジすることを見つけ、チャンスをつかむという。その時が福井にも来た。これからは第二次産業じゃなく、

第三、四次産業で勝負していかないといけない。その先手になるのが大野市だと思っている。

事務局：ふるさと納税は、お米が増えているが、大野は自然が良くて水が美味しい、そういうイメージが全国的に広がっている結果がふるさと納税の増加につながっていると思っている。5月からP a y P a y 商品券ということで、地元で使える商品券をふるさと納税返礼品として出すので、国道158号の厳しい状況ではあるが、それらを活用して地域経済が発展するよう頑張っていく。

6 閉会